

2021年度 日本工学院専門学校											
コンサートイベント科											
コンサートプロダクト4(制作)											
対象	2 年次	開講期	後期	区分	選択	種別	実習	時間数	270	単位	9
担当教員	富樫 咲子			実務経験	有	職種	コンサート制作、コンサートプロモーター				
授業概要											
多様化するコンサート・イベント業界に対応する為に、1年次に学んだコンサートの基本をより高度なものに高める。臨機応変な対応やトラブル対応など、実務として即戦力になれる力を身に着ける。コンサートの制作と運営の違いを学び、一つの公演を行うためにどれだけのスタッフが必要か、制作としての役割と運営としての役割を実際のコンサートを行いながら実践的に習得する。効果的な宣伝を行うにはどのようにしたら良いか、学校内はもちろん学校外での流行や動きを積極的にリサーチし、得たものを形にし実行する。チームごとの学習を多く取り入れ、自分が伝えたい事をより明確に相手に伝えるためにはどのようにしたら良いか、自分で考える事が習慣づくようになる。											
到達目標											
学校内での施設はもちろん、学校外の会場も使用し、1年次に培った経験を個々が活かし、円滑なコンサート運営を目標とする。ファンクラブ、グッズ、予算管理、チケット管理、客入れ客出しプラン作成、出演者とのやりとり、場内場外警備プラン作成、ロビー展開の考案、危機管理対策、コンサート運営に関するマニュアル作成とシミュレーション実施まで、チーム内で意見交換しながら作り上げていく。舞台・照明・PAなどテクニカルコースの学生を制作として統括するために、各セクションの役割を基礎実習で得た事を十分に活かしながら進行する。											
授業方法											
企業と手を組みながら、より本格的、多種多様なイベントへも参加し経験値を積む。 同時に複数のイベントを行い、より実務に近いカリキュラムを構築、実施。 学校外の会場を使用し、会場担当者との事前打ち合わせ等で得た情報を他コースへ共有し、情報共有の大切さを学ぶ。 コンサート制作コースの学生間、教員・講師との報連相を習慣づけ、コミュニケーション能力を身に着ける。											
成績評価方法											
授業出席率	50%	遅刻、早退、欠席を含む出席率で評価。									
提出課題	20%	冬期課題提出と内容を評価する。									
小テスト	10%	担当した出演者名や会場名、公演コンセプトなど理解度を確認する為に抜き打ちで実施する。									
成果発表	20%	積極的な授業参加度、発表方法や内容・言葉遣いなどによって評価する。									
履修上の注意											
イベントやコンサートを行う際、一部の学生に作業と責任が集中することの無いよう、万遍なく学生を見る事を心がけ、偏りや最良が出ないよう配慮する。運営中、柵や看板など多くの備品を運ぶため、怪我をしないように十分注意する。音楽だけでなく演劇やフェスなど「エンターテイメント」全般の観劇や映像作品を鑑賞。PCで扱うイラストレーターも活用する。制作・運営の中でもどの職種をやりたいのかを明確にし、企業・組織で協働する事の重要性を理解できるようになることを目標とする。											
教科書教材											
ステージ・PA・照明用語辞典：毎回の授業で活用 オンライン授業動画：自宅での復習に活用											
回数	授業計画										
第1回	かまた祭（公演概要作成、役割決め）予算管理、経費、コンサートビジネスとしての意識づけ										
第2回	かまた祭（人員の配置など安全を第一に考えつつコストを踏まえた上で高度な配置を考案、配信ライブを想定し実施）										
第3回	協賛・パブリシティに関して（協賛の取り方やプレゼン方法、ライブレポート等、外部との関係性の構築するための基本を学ぶ）										
第4回	かまた祭（より具体的な進行台本の作成、テクニカルまで相対的に把握する）										
第5回	かまた祭（タイムテーブル通りに進行しているのか？何が予定と変わったのか考察し次に活かす）										
第6回	外小屋ライブ（公演概要作成、役割決め、コンセプト・テーマ決め、会場下見）										

2021年度 日本工学院専門学校	
コンサートイベント科	
コンサートプロダクト4(制作)	
第7回	卒業ライブ（公演概要作成、タイトル/コンセプト/ロゴ決め、役割決め、会場下見）
第8回	卒業ライブ（顧客の管理、イベントの特性により最適な席次の構築、安全にかつ効率よい運営）
第9回	外小屋ライブ（予算立て、感染防止対策検討、出演者ブッキング）
第10回	卒業ライブ（グッズ、販促グッズ等の企画、立案、片柳アリーナにてシミュレーションを実施、宣伝方法提案・収集）
第11回	外小屋ライブ（学校外へ向けたプロモーション強化、配信ライブでのタイムスケジュール作成）
第12回	卒業ライブ（ポスター・フライヤーの作成、特別プロモーションの実施、お客様導線の装飾などイベント演出を考える）
第13回	外小屋ライブ（制作・運営のシミュレーション、タイムテーブルに沿って動きを最終確認）
第14回	卒業ライブ（前パブ、後パブなど媒体を使った宣伝の方法を理解、実施）
第15回	卒業ライブ・外小屋ライブ（在学中の反省を活かす、時間厳守・挨拶等基本を忘れず進める、総まとめ）

2021年度 日本工学院専門学校											
コンサートイベント科											
コンサートプロダクト4 (PA)											
対象	2 年次	開講期	後期	区分	選択	種別	実習	時間数	270	単位	9
担当教員	吉野雄一郎/小峰建			実務 経験	有	職種	音響会社				
授業概要											
コンサートPAスタッフとしての必要な知識の理解をはじめ、仕込み作業をスピードアップさせPAチームとしてのワークスタイルを確立し、更なるミキシングテクニックを実践的に学ぶ。この科目を受講する学生は、コンサート・イベント業界の中が協働の場である事を理解し、これまでは経験した事が無い舞台業界で求められる技術、知識を理解できるようになる。舞台とは「総合芸術である」その舞台演出の中でも音という分野を担当するという事はどういう事なのかを理解する。舞台音響業界はどのような人材を求められているか、その為にはどのような知識が必要で、どのような人間であれば良いかを理解できる様になる。											
到達目標											
1 年次で得た技術、知識をもとに、即戦力となるPAスタッフを目指す実習である。この科目は、学生が目指しているコンサート・イベント業界の中で活躍するイメージを持ち、その社会の中で自分を位置づけ、その中で音響業務を担う為の技術習得を目標とする。音響業界でもライブツアーやホール管理、楽器店など多種多様な進路があり、その志望している業種、企業、職種を自分の適性や関心を結び続けて理解を深めること、そして就職志望する企業、組織で協働する事の重要性を理解できるようになることを目標とする。											
授業方法											
仕込み図や回線表をもとにセッティングを行います。またその作業を反復練習することにより、理解度とスピードを上げていきます。またそれに必要な知識、技術をゼミも併用して身につけ、グレードにて自己確認します。											
成績評価方法											
試験・課題 レポート 平常点	40% 10% 50%	課題毎に提出。検定試験の受験・点数により評価 理解度を確認するために実施する。 実習時間内に行われる発表方法や内容、積極的な授業参加度、授業態度・出席状況によって評価する。									
履修上の注意											
コンサート・イベント科PA実習室等、にあるPA（音響）機材を使用する。重量物も多くあるので怪我などしない様に安全第一で行う。また機材破損の無いように十分注意する。動きやすいパンツ、靴で臨み、実習ジャンパー、実習Tシャツを着用すること。作業用のグローブの着用、また必要に応じてヘルメットの着用もすること。長髪は結ぶこと。授業時数の4分の3以上出席しない者は、成績評価の対象としない。											
教科書教材											
適時、参考プリント、資料などを配布する。											
回数	授業計画										
第1回	前期復習 / 前期の復習（セッティング反復練習、技術確認等）を行い、身につけている事を理解する										
第2回	機材研究 1 / 実践的デジタルミキサー卓のセッティングとオペレーション方法を研究する										
第3回	機材研究 2 / 実践的スピーカチューニング（メインスピーカシステムチューニング）を習得する										
第4回	機材研究 3 / 楽器研究（ドラムチューニング、PAサウンドチェック）する										
第5回	本番プロジェクト実習 1 / 学園祭プロジェクト 制作準備（セッティング、リハーサル模擬）を行う										
第6回	本番プロジェクト実習 2 / 学園祭プロジェクト 本番、撤収にて作業工程を理解する										

2021年度 日本工学院専門学校	
コンサートイベント科	
コンサートプロダクト4 (PA)	
第7回	本番プロジェクト実習3 / 学園祭プロジェクト 反省と検証、次回へ向けて課題確認する
第8回	音響測定1 / 音場研究と音響測定概念を学び、理解する
第9回	音響測定2 / 音場研究と音響測定の方法を習得し、技術を養う
第10回	楽器研修/ 楽器研究 (オンライン動画、安定した楽器電源の仕込み、楽器エフェクターについて) を行う
第11回	ライブ実習1 / 卒業ライブ 制作準備 (プランニング、仕込み、オペレート、チューニング練習) を行う
第12回	ライブ実習2 / 卒業ライブ 制作準備 (制作準備 (リハーサル、セッティング模擬)) を行う
第13回	ライブ実習3 / 卒業ライブ 本番を通じて作業工程を理解する
第14回	グレード試験1 / グレード試験 対策実習。実技試験を通じて、習得できた技術を確認する
第15回	グレード試験2 / グレード試験。実技試験を通じて、習得できた技術を確認する

2021年度 日本工学院専門学校											
コンサートイベント科											
コンサートプロダクト4（照明）											
対象	2 年次	開講期	後期	区分	選択	種別	実習	時間数	270	単位	9
担当教員	島立 麦人			実務経験	有	職種	バンケット照明				
授業概要											
1年次に学んだ舞台照明の基礎知識と技術を踏まえてより実践的な内容を学ぶ。昨今のコンサート業界で実際に用いられている機材に学内で触れることで、コンサートの現場へ就職した際に対応できる能力を身に付ける。学内外の施設を有効活用し、整った環境の中で舞台照明に必要な正しい技術の向上を図る。授業のアーカイブ化を実施することで、学内で学んだ内容を自宅で復習できる環境を提供する。											
到達目標											
以下の3つを習得することが目的 1. 照明機材の内部構造を理解しメンテナンスや修理ができる程度の技術を身に付ける。 2. ライティングデザインや本番実習を繰り返し経験することでコンサート全体の仕事を理解し、一つのイベントを学生のための力で作りあげる。 3. 年間の実習を通してコンサート業界で働く姿勢を身に付け、卒業後に業界内で活躍できる人材を育成することを最終目標とする。											
授業方法											
○対面授業 1. 学内外の施設を活用しライブハウスやホールでのイベントを想定した準備～仕込み～本番～バラシまでの作業を実践的に学ぶ。 2. 色彩理論やライティングデザイン、安全衛生法等の必要知識を学ぶ講義形式の授業を実施。 ○オンライン授業 1. 1年次の授業内容をアーカイブ動画を活用して復習する。 2. 2年次の授業内容をアーカイブ動画を活用して復習する。											
成績評価方法											
授業出席率	50%	遅刻、早退、欠席を含む出席率で評価。（公欠は例外とする）									
提出課題	20%	定期的な課題の提出率、提出内容で評価。									
グレード試験	20%	試験の合否、									
授業成果	10%	授業への取り組み姿勢を評価									
履修上の注意											
安全第一で授業を実施。重量物や昇降物がある為、声を出すことが非常に大切になる。照明スタッフは高所に上がることもあり。理由のない遅刻や欠席は認めない。挨拶をしっかりと行うことが大切。 グレード試験や小テストを行い理解度を確認する。 携帯電話は使用禁止。教室内は機材がある為、飲食は禁止とする。授業時数の4分3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。											
教科書教材											
○舞台・テレビジョン照明：テキストを基に資料を作成。授業内で学生へ配布 ○ステージ・PA・照明用語辞典：毎回の授業で活用 ○オンライン授業動画：自宅での復習に活用											
回数	授業計画										
第1回	ネットワークについての講義 目標：照明の操作卓、3Dシュミレーター、使用施設、使用機材をつなぐネットワーク理論を理解する。										
第2回	仮設電源実習 目標：小会場や野外現場で用いられる仮設電源について、知識と技術を習得する。										
第3回	高所作業実習 目標：足場やイントレ等の高所で照明機材の仕込み方を学ぶ。安全と注意に関して正しい知識を得る。										
第4回	機材理解について実習 目標：機材の内部構造や駆動の仕組みついて学ぶ。ある程度の修理が行える技術を身に付ける。										
第5回	1.2年合同実習 目標：卒業期の学生が進級期の学生へ知識と技術を教えることで自身の学びを他者へ伝える技術を身に付ける。学年を越して縦の繋がりを構築する。										
第6回	学内ライブ実習①（学園祭準備） 目標：複数の会場を使用しての実習を行うことで、機材の配分やタイムスケジュールの管理を身に付ける。										

2021年度 日本工学院専門学校	
コンサートイベント科	
コンサートプロダクト4（照明）	
第7回	学内ライブ実習②（学園祭本番） 目標：少ない人員での本番実習を通して、各自の作業効率向上や限られた時間の活用方法を考えさせる。
第8回	照明技能認定試験対策講座（筆記） 目標：照明技能認定2級相当の照明の知識を理解し習得する（機材知識、電力計算等）
第9回	照明技能認定試験対策講座（実技） 目標：照明技能認定2級相当の照明の知識を実技練習で習得する（仕込み・配線・バラシ）
第10回	照明技能認定試験 目標：照明技能認定2級を目標とする（実技試験・筆記試験）
第11回	卒業ライブ実習①（資料作成） 目標：2年間で最大の機材数を使用した仕込み図を完成させる。
第12回	卒業ライブ実習②（ライティングデザイン） 目標：明かり作りを通して会場の構造や空間を意識したライティングデザインを学び、データへ反映させる。
第13回	卒業ライブ実習③（テクニカルリハーサル、リハーサル） 目標：テクリハ、リハーサルを通して、ライティングデザインの修正、最終調整を行い本番に備える。演者や観客の視点から明かりのデザインを考え、より完成度の高い明かりをデザインする。
第14回	卒業ライブ実習④（本番実習） 卒業ライブ実習での本番、バラシ作業を通して学外ホールでの作業工程を円滑に行うことができる。 演者や観客がイベントに参加して良かったと思える舞台照明を作り上げる。
第15回	舞台照明グレード試験（卒業試験） グレード試験を通して2年間学んだ自身のスキル（知識・技術）を確認し、卒業認定を得る。

2021年度 日本工学院専門学校											
コンサートイベント科											
コンサートプロダクト4（舞台）											
対象	2 年次	開講期	後期	区分	選択	種別	実習	時間数	270	単位	9
担当教員	山下顕治			実務経験	無	職種					
授業概要											
より対外的なコンサートやイベントの実施に関わることとなります。学生の学びの場から、成果発表へのステージアップが図られていきます。最終的な評価はコンサートの成功とされ、本質的な部分では観客の印象が評価となります。製作課程の様々な状況は、互いのスキルアップによって、より複雑化していきます。求められるのは他のセクションを統率していく為の説得力と実行力となります。説得力を身に付けるには感性や感覚だけではなく、理論に裏付けされたアイディアの修得、実行力には作業の精度と速度を高める回復力が不可欠です。											
到達目標											
かまた祭、卒業ライブと観客の層を更に広げたものを意識したコンサートの成功を目指します。本番のクオリティだけではなく、アイディアを出し合うブレンストーミング、デザインや演出内容の判断基準を上げていきます。社会人としての目標である就職先でのルールに適用する技術とスピード、コミュニケーション能力などの向上を目指します。製作課程における様々な困難に対して実施した試行錯誤、コンサートの成功の為に必要な責任感、成功から得られる達成感を、今後の自分の職業や人生において活用し、人間力を高めていくことを目標とします。											
授業方法											
アイディア捻出におけるブレンストーミングにおいて、リサーチの幅を拡大していきます。既に実施して習得したとされる作業や資料作成の為に活用したVector Works やExcel のスキルに対し、スピードとクオリティをあげ、また反復性と拡張性を求めています。それにより、当該分野である音楽業界のみならず、パソコンスキルやコミュニケーションスキルが欠かせないと言われる、ほぼ全ての業界に向けても必要最低限の知識技術を培います。またコミュニケーション能力の向上の為に、何が必要であるかを見極め、それに必要な取捨選択を出来るような判断力を身に付けるために、PDCAを繰り返し実施し、自ら考え、挑戦していくことで、スキルを向上させます。											
成績評価方法											
試験・課題	5% グレード実技試験（グループ）グループでの作業手順の習得度とチームワーク貢献度を確認します										
小テスト	5% グレード筆記試験を実施。手段や手法、必要資料の作成を通じての習得度を確認します										
レポート	5% 実施したコンサートを振り返り、その製作過程と結果から得たもの、感じたものが内容となります										
成果発表 （口頭・実技）	5% 提示したアイディアや実作業におけるリーダーシップの発揮などは積極的な加点評価となります										
平常点	80% 出席点 スキルがあっても欠席や遅刻があっては、自分の実力は発揮できません										
履修上の注意											
仕込、リハーサル、本番に向けて、それぞれの局面における更新、変更事項に対する資料の修正、改善などをしていくのは、必須となります。その際のフォーマットのクオリティ、それらを各セクションで共有する手段と伝達方法は、作成するコンサートによって最善の方法が違ってきます。またデザインアイディアなどは、様々なコンサートを参考にできるように、常日頃の自主学習（アイディアの収集）は欠かせません。授業時数の4分の3以上出席しない者は単位を取得することが出来ない。											
教科書教材											
Vector Works 2019 Student edition microsoft office（特にExcel） google driveなど											
回数	授業計画										
第1回	玉掛け、小型クレーン 講習 / 玉掛け、小型クレーンなどの目的や必要性などを学習。希望者は修了証取得のために別途受講。										
第2回	特殊効果特別講義 / 特殊効果の会社のデモンストレーションから、種類や方法などを学ぶ。										
第3回	学内ライブ準備① / タイムテーブル、進行表、図面を仮組を元に修正、決定したステージセットに必要なアイテムを製作										
第4回	学内ライブ準備② / テクニカルリハーサル 照明、音響とともに仕込、出演者なしのリハーサルで技術的な問題点を確認										
第5回	学内ライブ準備③ / リハーサル 照明、音響とともに仕込、出演者ありでのリハーサル。本番の成功に向けた修正										
第6回	学内ライブ本番 / 片柳アリーナ、A-Stage、Box Stage、片柳記念ホールにて仕込、本番、撤収										

2021年度 日本工学院専門学校	
コンサートイベント科	
コンサートプロダクト4（舞台）	
第7回	卒業ライブ立ち上げ / 卒業ライブスタッフ決定 様々なプランニング開始 スケジュール立案
第8回	卒業ライブ1, 2 準備① / デザインアイディア、タイムテーブル、進行表、図面の作成、会場となるライブハウスの資料習熟
第9回	卒業ライブ1, 2 準備② / 演出に電飾や映像を組み込むためのプログラミングや仕込み方の練習
第10回	卒業ライブ1, 2 準備③ / デザインアイディア、タイムテーブル、進行表、図面のブラッシュアップ
第11回	卒業ライブ1, 2 準備④ / デザインアイディアの仮組 作業状態や作業手順の確認、ステージセットデザインの決定
第12回	卒業ライブ1, 2 準備⑤ / タイムテーブル、進行表、図面を仮組を元に修正、決定したステージセットに必要なアイテムを製作
第13回	卒業ライブ1, 2 準備⑥ / 照明、音響とともにテクニカルリハーサル、出演者を加えてリハーサルを実施。本番に向けて修正
第14回	卒業ライブ1 本番 / 卒業ライブ①本番 (Zepp Haneda)
第15回	卒業ライブ2 本番 / 卒業ライブ②本番 (Zepp Hasneda)

2021年度 日本工学院専門学校											
コンサートイベント科											
コンサートプロダクト4（企画）											
対象	2 年次	開講期	後期	区分	選択	種別	実習	時間数	270	単位	9
担当教員	田中朋子			実務 経験	有	職種	イベント企画				
授業概要											
イベント企画制作における知識スキルの習得・実地経験を通してコンサート・イベント業界への就職を目指す。 また変化の激しい時代の中で、イベントを行うためのスキルだけではなく、イベントの根本的な目的が、目的を達成するための手段であるという認識を学生全員が常に持ち、マーケティングの角度からもイベント制作に携わることができるようにする。 本実習を通し、様々な課題に直面し、失敗や成功経験を重ねることで、時代を生き抜く力を付ける。											
到達目標											
◆イベント制作における企画制作宣伝運営能力を身に付ける。 ◆ハイブリッドイベント(リアル・配信)へも対応できるようになる。 ◆マーケティング能力・知識を身に付ける。 ◆映像制作を通して、オープニング・エンディング・ジングル・プロモーションなどあらゆる映像制作における能力を身に付ける。											
授業方法											
イベント企画制作を実地経験を通し実習を行う 実習では、常にPCやあらゆるソフトアプリを使い時代に応じた情報伝達を行う 実地経験のためにインターンシップも取り入れながら経験値を付けさせる											
成績評価方法											
試験・課題 レポート 平常点	40% 10% 50%	課題毎に提出。検定試験の受験・点数により評価 理解度を確認するために実施する。 実習時間内に行われる発表方法や内容、積極的な授業参加度、授業態度・出席状況によって評価する。									
履修上の注意											
イベント開催の際には、一部の学生に作業と責任が集中することの無いよう、全体的にを把握することを心がけ、偏りや最良が出ないよう配慮する。 運営中、柵や看板など多くの備品を運ぶため、怪我をしないように十分注意する。PCで扱うイラストレーター、無料映像ソフトも活用する。イベント企画・制作・宣伝・運営の中で、どの職種を目指したいのか進路を明確にし、企業・組織で協働することの重要性を理解できるようになることを目標とする。											
教科書教材											
適時、参考プリント、資料などを配布する。											
回数	授業計画										
第1回	オリンピックパラリンピックインターンに対してのフィードバック 関連企業様よりオリパライメント実施後の効果・課題などについて学ぶ										
第2回	映像企画立案から制作にいたるまでのフィードバック、コンテンツの企画に対して目標達成したのか検証										
第3回	イラストレーター講座 ポスターフライヤーを作ることができるようになり、制作において必要な要素を学ぶ										
第4回	ハイブリッドイベント実現に向けて世の中の情勢をリサーチする										
第5回	ハイブリッドイベント実現に向けての企画を考える・企画に合わせた配信ツールを考える										
第6回	関連企業への企画プレゼンテーション、フィードバック、企画の方向性修正										

2021年度 日本工学院専門学校	
コンサートイベント科	
コンサートプロダクト4（企画）	
第7回	ハイブリッドイベント実現に向けての運営マニュアル作り・遵守するポイントを学ぶ
第8回	ハイブリッドイベントでSNSをどう活用するかマーケティングに基づき考える
第9回	SNSを用いたプロモーションプランを企画内容やターゲットに合わせ考える
第10回	イベントにおける搬入搬出について学ぶ
第11回	イベントにおけるオープニング映像・ジングルを制作する
第12回	製作物作成・準備・協賛・運営マニュアル作成・広報活動など各セクションに分かれて業務
第13回	イベント実施内容についての運営マニュアル読み合わせ・シミュレーション・リハーサル・企業様との打合せなど
第14回	ハイブリッドイベントの実施 オープニング映像を取り入れ、配信もあわせて実施
第15回	ハイブリッドイベントの目的に対する結果・課題などを検証 新社会人へ向けて2年間の振り返り・今後の目標キャリア形成